

第1回白井市廃棄物減量等推進審議会会議録

1. 開催日時 平成31年3月6日(水) 午後2時30分から午後3時45分まで
2. 開催場所 市役所本庁舎災害対策室3
3. 出席者 委員 山谷委員、鬼沢委員、寺田委員、藤田委員、藤本委員、市川委員
大野委員、生田目委員、井川委員、清田委員、菅原委員、吉村委員、
大家委員
事務局 川上環境課長、金森主査、芳賀
4. 傍聴者 0人
5. 報告 白井市のごみの現状について(平成31年1月末)
6. 配布資料 ①審議会次第 ②白井市のごみの現状について(平成31年1月末) ③家庭
ごみ有料化スケジュール案、災害廃棄物処理計画スケジュール案④条例、規
則の抜粋 ⑤委員名簿⑥席次
7. 議事 以下のとおり

○事務局 第1回白井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。

○市長 委嘱状交付

○市長 あいさつ

- ・委員引き受けに対する御礼。
- ・行政協力に対する御礼。
- ・市の庁舎(新築、減築)を事例に市の環境への取り組みを紹介。
- ・市では減量に努めているところであり、委員の皆様からご意見・ご提案をいただき推進していきたい。

○事務局 役員選出に先立ち、自己紹介を願いたい。

○委員 各自、自己紹介。(省略)

○事務局 事務局紹介。
資料の確認。

○事務局 役員選出にあつては、白井市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例規則第2条に基づき、会長・副会長各1名を委員の互選により選出。委員について、協議願いたい。
事務局案として、藤田委員にお願いしたいがどうか。(「賛成」拍手あり。)

○事務局 副会長については自薦が無いようなので会長になられた藤田委員より推薦いただきたい。

- 会 長 山谷委員にお願いしたい。（「賛成」拍手あり。）
- 事務局 それでは、役員を代表して、藤田会長より一言いただきたい。
- 会 長 少しの期間だがよろしくお願いしたい。（拍手）
- 事務局 市長にあっては、所用によりここで退席させていただく。
（市長退席）
欠席委員の報告。
- 会 長 本日の会議は、白井市審議会等の会議の公開に関する指針第3に基づき、公開とする。
なお、傍聴定員は5名である。
- 会 長 白井市のごみの減量について、事務局より説明を願いたい。
- 事務局 資料を基に白井のごみの現状等を説明
- 委 員 事業系のごみが減った理由は。
- 事務局 詳細は把握できておりませんが、事業所が減ったものと考えております。
- 委 員 食品ロスの調査をしているか。
- 事務局 食品ロスについての調査は、特に行っておりません。
- 会 長 廃棄が今すごくふえて。コンビニさんは今これから廃棄するものをできるだけ減らしましょうと。作り過ぎないようにしましょうということで動いていますけれども。そういった市内の大手のスーパーやコンビニさんのごみも一括して、クリーンセンターのほうに行くという形でよろしいですか。それとも業者さんは業者さんで、専門のところに持っていくという形になっているのかどうか。それによってこのデータの違いも出てきますから。
- 事務局 よろしいですか。詳しくは調査はしていないというのは、さっきも伝えたのですが、スーパーによっては、食べ残し、食品ロスの部分については、その部分だけを分別をして、堆肥化だとか、そういうところを回しているというところも聞いたことがありますし、あとはどうしても、汚れたものについては、どうしても焼却しなくちゃいけないというものはありますので、そこら辺については、

クリーンセンターのほうに処分をしているものと思います。

○会 長 ありがとうございます。本当に生ごみも、先ほど〇〇委員からもお話いただいた堆肥化にするのが結構大事になってくるのかなと思いますけれども。大体そういうやつも、スーパーとかコンビニの合成保存料とかいろいろ入っているものでもあったりして、それも今後、課題になってくるのかなというふうには思います。そのほか、ありますか。なければ次に行きますけれども、よろしいでしょうか。

○委 員 家庭ごみ有料化のスケジュールのところの表を見て、この家庭ごみの有料化というのは、燃えるごみの有料化なのでしょうか。

○事務局 今ご指摘のように、家庭ごみ、燃えるごみですね。こちらを有料化しようということ考えています。

○委 員 前年度、粗大ごみの値上げの件で審議させてもらったのですけれども、今度は燃えるごみの有料化ですか。わかりました。

○会 長 いろいろやっぱり経費の都合で、どうしてもそうならざるを得ないのかなという状況になってきていますので、できるだけごみを出さないという方法をまたいろんな案を考えていく必要があるのかなというふうに思っています。

○委 員 今、ごみ袋を有料で買っておりますよね。家庭ごみ有料化の経費はどのように負担するのですか。

○事務局 まず今、ごみ袋を買っていらっしゃいますよね。あれは製造コストに対する、だから通常の商品をつくるときってコストかかりますから、その分ということで業者に払うのですね。現在考えております有料化というのは、それとは別に、ごみそのものの処理に要する分のお金を少しそこに含む、今のところは袋に上乗せするのが一番やりやすいかなというので考えているのですけれども。例えば、100円で売っている袋に何十円か上乗せをした形で売るという形で有料化をしようということ。

○会 長 委員、よろしいでしょうか。大丈夫ですか。

無料で配布できるのが一番いいのでしょうかけれども、なかなかそういうわけにはいかない状況というふうになっているのかなと。

ほかに。なければ次に行かせていただきますけれども、よろしいでしょうか。

それでは、続いて議題（2）、その他について、事務局の説明お願いいたします。

○事務局 来年31年度の1回目の会議の予定をお伝えをしておこうと思っております。予定では、5月の中旬ぐらいを予定していきたいと考えておりますので、また決定しましたら、今回と同じように通知のほうを送らせていただきますので、ご出席のほどよろしくお願いいたします。以上でございます。

○会 長 今、説明いただきましたけれども、皆様のこの予定などご確認頂き、何かご質問がありましたら、お聞かせいただければと思いますけれども、よろしいでしょうか。もし何かありましたら、事務局のほうにご連絡いただければというふうに思いますので、よろしく申し上げます。

今回、第1回目ということで、皆様の貴重な時間を使わせていただいて、終了させていただきますけれども、今回は、新しい委員さんも5名ということで参加いただいていますので、今後も引き続き、皆様と協力しながら家庭ごみの有料化について、答申まできちっと持っていけるようにしていきたいと思っておりますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

○委員 もう一回だけ質問させてもらっていいですか。家庭ごみの有料化の話なのですが、これは、印西クリーンセンターの印西地区環境整備事業組合ですか。あちらのほう全体で考えていることなのか、白井市独自の考えなのか教えてください。

○事務局 そこを突かれると非常に辛いところがあるのですが、前回の審議会でもご指摘いただきましたけれども、一元化というような形でできれば一番よろしいのですが、既に栄町は有料化しております。印西市につきましては、粗大も含め、まだ無料と。白井市は粗大だけ有料という形で、足並みがそろっていないというのが実情でございます。組合と構成市町で協議はしているのですが、なかなかその足並みそろえるまでは行っていないということで。

白井市は、ここでクリーンセンターの建てかえが実はありまして。先ほど、委員のほうで、印西の計画のほうの委員で参加されたとお話がありましたけれども。10年先には新しいクリーンセンターになります。その施設規模を決めるときに、ごみ量が基本になりますので、さらなるごみの減量化を図るためにはどうしたらいいかということで。有料化というのは一つの大きな動機づけになるということで、白井市は、先行してそこに取り組もうというのが今回の提案でございます。ですから、印西市は、多分当分無料だと思います。

○委員 それこそ以前、袋をごみ袋として買うようになったというか、それがもともと有料化ではないけれども、その袋を買うことによって、ごみの量を意識して減らせるのではないかとということで導入したと思うのですが、そこからさらにもっと進めてということなのですね。意識としては。

○事務局 要するに、分別を徹底して使えるものは使えるほうに回す。どうしてもしょうがないものだけ燃すというような形で、その辺の意識改革をやはりやっていかないといけないのだろうということを考えておりまして。袋を買うようになったということが、多分動機づけにはなって、ある程度来ているのですが、やはり安い形で、無料ですよ、ごみそのものの処理は。ですので、そこを何とかしたいということがあって、今回の。ですから、金目の話だけでやっているのではないということです。目的は、ごみのさらなる減量化を図るということで有料化したい。

○委員 ちょっといいですか。34年の4月には、有料化開始とありますね。この開始というのは、これまでに決めてしまうということですか。

○事務局 スケジュールで34年からという形にしておりますけれども、あと3年ございます。この2年間、皆様の任期が2年ございますので、その任期の間にいろいろご審議をいただいて、具体的な方向性とか、そういったもので答申をいただくと。

そこから準備を進めて、これ、やはり、市民に重大な負担を強いるといったような内容になろうかと思っておりますので、十分ご理解をいただくための期間として、周知期間に1年とってやろうということで、34年という設定をしております。

最近ですと、四街道市が有料化をするということで、もう周知されておりますので、こういうところも参考にしながらやっていきたいと思っています。

実は、山谷先生、山谷修作という、ホームページで引きますと、先生のホームページが載っております、そこにいろいろなごみの全国の状況とか、大変重要なデータを集めたものが載っておりますので、もし皆さん、パソコンで見られれば、そういうところもご参考にさせていただけると、より理解が深まるかなと。

○会 長 どうぞ。

○委 員 終わってからすみません。有料化ということで、具体的なその負担、何となくの金額とかそういうのは、ある程度もう目星がついているのですか。

○事務局 具体的には、千葉市が最近やったのが、1円いかなかったかな。ということで、四街道市さんが多分1リットル2円ぐらいだったかと思います。

先般、山谷先生のところにお伺いしたときに、いろいろお話を伺いましたら、やっているこの近辺でスタンダードなのが、リットル2円ぐらいといったようなことでお話をお伺いしています。具体的に幾らに設定するかというのは、これは、これからいろいろ調査研究を皆さんでしながら、どのぐらいがいいのかということとは決定していく形になろうかと思っております。

○委 員 リットルということは、1袋に幾らという感じなのですか。

○事務局 はい。大袋が大体40リットルぐらいということになってございますので、2円ですと80円ぐらいですかね。ただ、これはあくまでも、その辺のやっている団体がそういう状況だということで、うちがやるということではございませんので。数字だけ一人歩きしちゃうとちょっとあれです。

○委 員 この2年間に、資源化がもっともっと皆さんの分別が進んで、資源化のほうになって燃えるごみが少なくなれば、その金額も当然また検討するということですね。

○事務局 一番の大きなところが、やっぱり減量化を図るということですので、意識改革ができれば、逆に無料でもどんどん減っていくということが事例としてはあるようでございます。

○委 員 だから、先ほど事務局からご説明のあった、燃えるごみの中の生ごみ類とか紙類が含まれているものが、もっと資源化できるもの、あるいは食品ロスを減らすことで、その減量がすごく進むわけですから。

○会 長 意識ですね。意識化をもっと高めていけるようにしていければ、すごく減らしていけるのかなと。お金かかる、かかるばかりではなくて、消費者の私たちが、いかにそのごみを出さないような買い物なり何なり、また料理なり何なりをしていくようにしていけると、お金もまたかからなくて済むのかなと。

先ほど、委員が言われたように、人口が減っているからごみも減っていくという

だけではなくて、人口がふえることによっても、ごみはふえないねという状況をいかにつくっていくかということも大事かなというふうに考えますので。

それから今、企業さんもいろいろ考えていて、プラスチックのものを紙にとか、木とか、あとは自然と自然に戻るような材質を何か考えられて、いろいろ考えているみたいですがけれども、その辺も今後期待しながら、我々、この2年の任期の中で、世の流れ、うまく流れに合わせた形で減量化を進めていけるといいのかなというふうに思いますけれども。次回、2回目のときには……。

○委員 クリーンセンターというのは、いつごろから再建設して稼働するようになるのですか。

○事務局 今、建設に向けまして、いろんな準備をしています。用地取得は終わっております。

○事務局 本体用地の用地取得は全て完了しまして、今、それに取りつけるアクセス道路の用地買収に入るような形で。今の予定だと、平成でいうと40年度の稼働開始ということで、今、準備を進めています。

○委員 そうすると、稼働する四、五年前には、もう設計図もできて。

○事務局 そうですね、はい。

○委員 全て、一応能力もはっきりすると。

○事務局 そうですね、はい。基本設計については、31年度から3年間をかけて、基本設計と、あとどういうふうに発注していくかという、そういう事業を行いまして、34年度から多分実施設計のほうに入っていくと思います。

○委員 今の白井市が、年間、可燃ごみとして出しているのが大体1万トンを出していますね。さっき課長がおっしゃったように、印西市とはちょっと落差があるし、栄町ともまた独自のやり方をやっている。だから、白井市も独自のやり方でやってもいいのではないかというところであれば、例えば、その1万トンのうちの可燃ごみのこの49%ですか、生ごみであったり雑紙であったりしているわけですがけれども、その1万トンを今後の見通しの中で、例えば、8,000トンになるとか、6,000トンにしましょうとかという努力をすれば、10年まで、33年ごろの基本設計も縮小する形でできるわけでしょう。

○事務局 そうですね、はい。

○委員 いろんな情報によると、200億ぐらいかかるのだという話ですから。白井市だけは生ごみの堆肥化の一部も始まっているし、雑紙も、ある程度の見通しをここでつけておけば、白井市のほうはそんな負担を出していないのだから、応分の負担ということになれば、やり方によっては、もうちょっと市民も今大体、トンあたり2万7,000円ぐらい、各家庭が税金で払っているわけですから。これが1万円になるとかというふうになる方向で、検討をしていかないと、我々は何のためにここに来ているのかということにもなります。例えば、生ごみの中にピンセットが入ったり、何かこんなスプーンが入ったり、いろんなそういうので堆肥化はできませんという話もありますから、全てにおいて、小さいことでも徹底してやっ

た上で、小学校とかどこかの協力校を一つのモデルにして、学校給食の残渣についてだけはこうやっていきましょうというモデル地区を何かつくっておいて、そこでうまくいくかどうかとあって、実際堆肥に戻していければ、その特定の団体、団地でもいいから、そこを1回やってみましょうと。3年の最終過程では、そこまで踏み込めますという見通しがつけば、やっぱり設計規模ももうちょっと縮小してもいいのではないかというふうになる可能性を白井市だけが持っている。印西市さんはとても無理だから、このようにして検討する必要があるのではないかと思います。

○事務局 実際には、建設の費用については、ごみ量で計算をしていきますので、白井市のごみがぐんと減れば、その分は減っていきますので。その辺は多分、多分というか、市民の皆さんにご協力いただいて、そこら辺も減らせれば一番いいかなというふうに、私どもも思っていますので。

○委員 そうですか。了解しました。

○委員 済みません。一ついいですか、確認を。私、雑紙を分けて紙袋にいつも入れているのですけれども、生ごみを見ると、雑紙物すごく入っているのですよね。あれを例えば、今、青い、燃えるごみとかありますけれども、雑紙用のそういう袋を、袋というかな、紙の袋ですよね。そういうものをつくったらどうですかという提案をこの会議の中でしていってもいいのでしょうか。どうなのでしょう。初めて出るので、どういうふうに言ってもいいのかわからないのですけれども、そういう提案をしていいのかどうか、ちょっと確認したいのですけれども。

○会長 提案はどんだんね。

○事務局 提案はどんだんやっていたらいい。

実は、雑紙袋につきましては、1回やってみようかということで、試験施行しようとして検討したことがございました。ところが、費用対効果の問題等で、財政課でもうちょっとよく考えてからやれといったようなことがございまして、実現にいたらなかったのです。ただ、審議会が正式にそういう形で答申とか何かで、そういう減量化に向けてのこういうことをということでいただければ、それはまた検討できますので、ぜひお願いします。

○委員 雑紙とかそういうの、私たちでいろいろやって、3年ぐらいいろいろ取り組んで。さっきの雑紙の袋ですか、あれも新聞紙でつくれるのですね、簡単に。ですから、費用もかかりますし、そうするとまたいろいろコストの面もあるし。なぜ減らすのかというと、やっぱりごみ処理場ですね。量でお金を払わなきゃいけない。それも減らすし、あと、意識がだんだん変わってくると思うので。そういう減量アドバイザー、3年ぐらい結構力入れてきたのですが。

ただ、子供たちも4年生が、ごみのセンターに見学に行くのです。それで、そこから子供たちが学んで、結構親に教えていることもあるので、そういう、もう本当に小さなことをやれば、3年間見てきて、少しずつ子供から大人というのが一番いいかなという思いがしました。袋は大変なので、やっぱり今回いろいろ使

うので、その紙でつくったりして、それに入れたりして。ということで、コストをかけずに、家のあるものでそのまま出せるというのが、それもいいのかと思って。

やっぱりお金、コストを出す、ちょっとした努力で減るものですから、そういう意識を変えていく。だから3年間かけて皆さんと話し合っ、3年かけて少しずつ意識、皆さんの意識、なかなかやっぱり変わらない、ごみ捨てに行くと、雑紙がもういっぱい捨ててありますし、混じっていますし。でも、やっぱりこつこつこつと広めていくのが一番かなと、ここ3年ぐらい思いましたけれども。

○委員 例えば、今おっしゃったように、紙袋ということになれば、相当の世帯数ですから、あるいは、どういう期間で配るかとか、買ってもらうかとかありますよね。

○委員 紙袋は、もう最悪の場合は新聞紙、折って、変な話、のりで下と横を押せば袋になりますので、その中に入れて、ひもというか、紙ひもですか、プラスチックじゃなくて。あれでこうやれば、2カ所やれば結構入りますし。

○委員 私としてはもう普通、十字に、雑紙だけをいろんな種類の雑紙であっても、底のほうには幅広いもの、中には小さいのを全部入れ込んで、十字にすれば。

○委員 袋だと、小さいものもみんな入りますので。うちは、こういう袋を用意して、ぼんぼんぼんぼん入れていって、それを最後に、こんなに小さいものもありますし、こんな大きいものもあります。それを混ぜて、ただ入れていって、最後、入れて。少しずつ。

○委員 紙袋を準備するよりも、ひものほうが。ひもを各家庭に、これ雑紙用ですというPRを、これはPRですよ、PRをしたほうが、むしろ資源の無駄遣いにもならないし、やりやすいのではないかと思うのですけれどもね。

○委員 ひももなければ、ふたしちゃえばいいことですし。

○委員 そうそう。ふたしたものを。

○委員 ええ、のりでなくても。

○事務局 雑紙の資源化というのは、組合の中で共通の話題でもあったので、課題、課題ですかね。でもあったので、担当者レベルでは、こういうのをつくってみたいというふうには提案したのですけれども、なかなか、じゃあどういうふうにつくったら。うちと印西については、大体分別が一緒なのですけれども、栄町はちょっと違うところがあるのですね。そうすると、じゃあ2種類つくらなくちゃいけないかなという、やっぱりコストがかかっちゃうので。じゃあ、どうしようかということで、ちょっと実現には至っていないのですけれども、来年度以降で、また担当者レベルで話をさせていただいて、お試し袋というのですかね、それをきっかけに、各家庭がこういう袋で出してくださいねということであれば、かなりPRになるかなというふうに話をしております。そこら辺については、ぜひ進めていきたいなというふうに思っているのですけれども。

○会長 どうすればできるかという話をどんどん、どんどん進めていければいいかなと思いますので、2回以降が非常に楽しみに。

実は私、印西の地区の環境整備事業組合の会議のほうにも参加させていただいているのですけれども、内容にちょっと口出しさせていただいたのですね。今まだこれからつくる。でき上がってからもの言ってもだめなので、今できる前に、いろいろ意見をどんどん出していければなと思っているのですけれども。

ただ、話をすると、もう決まっていますとか、もう青写真ができていますとか、そういった話になってしまっているのです、できれば何とかこの白井市で、広い意見をぼんと出せるような形もとれると非常にありがたいなというふうに思っておりますので、ぜひご協力いただければと思います。

第2回もごさいますので、そのときにまた貴重なご意見をいただきながら、一緒にさせていただければと思いますので、本日はこの辺で終了させていただければなと思いますので、よろしいでしょうか。

ぜひとも、第2回目のときには、またご意見いろいろいただければと思います。よろしくお願ひします。ありがとうございました。

○事務局 では、一応、きょうのやつは会議録というものをうちで作成します。発言内容等のご確認用で、皆様方に1回お送りさせていただきますので、その辺で修正等あればお願ひします。

○委員 先ほど、紙ごみの件、雑紙の件なのですけれども、せっかく自治会連合の方がみえているので、それこそ自治会単位でごみの分別について、講習会なり何なり、そういうのがあると、もっと徹底されるのではないかなと思ったのですけれども。

○事務局 その辺の関係は、私ども、なるほど行政講座で、ごみの分別について職員を派遣していろいろやっていますので、ぜひお声がけいただければ、いつでもどこでも参上いたしますので。

○委員 実施的にはよくわかるのだけれども、なかなか自治会で手を挙げてというのがなかなか。それこそ自治会連合でこういうのがあるので、ぜひとも利用してくださいみたいな、そういうふうに声かけをしていただけると、知ってはいても、なかなか利用する自治会って少ないのではないかなと思うので。機械的にそういうふうなお知らせをしていただけると、ああ、そうかと思って、ことしやってみようかというところもふえてくるのではないかなと思います。

○会長 そうですね。

○委員 今、新聞紙って用意されているのですね。ごみの分別、全部今みたいに。それを読んでいる人も読んでいない人もいますよね。各自治会においては、環境担当の人がいまして、毎月、その出し方を見ているわけです。チェックしているのですね。それをレポを出しているのですよ。それで、大体状況がわかるのですよね。どういう出し方されていますかという感じで、そこら辺がいませんねという。そういったものを参考にされたらいいと思うのですよね。そういうのを出しているのですから。

○委員 それは、一般職じゃなくて、自治会の中でも役員をやっている人がチェックをし

て、その情報を持っているよという話ですよ。

○事務局

そうです。

○委員

そうじゃなくて、一般市民にそういうお知らせをする機会というのか、教える機会として、その自治会連合から自治会宛てに、そういう講座があるから、ぜひともやってみたらいかがですかみたいな、そういうPRをしていただけると、その自治会で、役員も毎年同じ人じゃなくて、初めての人やなんかもみえるから、ああ、そうかと思って、ずっと乗る方もみえるのではないかというふうに思うのですよ。だから、いい機会じゃないかなというふうに思うのですけれども。

○会長

自治会ごとにそういう機会を設けて、説明会、いついつ呼びましょうということ、市のほうからも来ていただいて、全部説明して、集まってくださいと、そういう機会をつくるということ。そういうことですよ。

○委員

そういうことです。

○会長

それはいいことだと思うのですよね。

○委員

やっぱり、多分ここにみえる方はそれぞれ意識が高くて、せめて自分のところのごみぐらいはちゃんとしようと思っている人が来てみえると思うのですけれども、開けてみて、ちょっと違うのが入っているぞというのは、そうじゃない人が出していると思うのですよ。そうじゃない人になかなか、違うわよと、よその家庭のごみのことについて口出ししにくい部分があるので。だから、みんながそれぞれそういう機会があって、教えてもらえば、対等なのでいいかなというふうに思うのですけれども。

○事務局

環境課でも営業をかけますので。

○委員

市に今住んでいるのですけれども、リサイクル便りというのが。私もちょうど自治会の、去年ですか、やっていたので、そういったものを利用したりして。あとはマンションに掲示をしたりして。まさに雑紙ですかね、私もあんまり、この審議会に入る前と、何か本当に捨てちゃっていたと思うので。よくよく確かにそれを見ると、本当に家庭にある本当の紙を、紙袋に雑紙と書いて集めてくださいよという、簡単に説明が、トイレットペーパーの芯でも何でもかんでも。それを今までやってなかったということで、今さらながら家で集めて、本当にたくさん集まりまして。そういう、あえてつくとそれ自体がごみになっちゃうので、ありものの紙袋に雑紙とわかるように書いて出してくださいという、そういうアナウンスを、広報とかいろんなところで繰り返して行って、洗脳じゃないですけども、よい意味での洗脳活動じゃないですが、そういったものができていけば、お金もかけないで。

○委員

スプレー缶の出し方が、透明の袋に入れて出せばいいとなったじゃないですか。あれと同じように、雑紙は紙袋に、自分の家の紙袋でいいのです。

○委員

そうです。

○委員

紙袋に入れて出すようになりましたで、全然問題ないと思うのですよ。

○委員

それが当たり前の習慣にできればいいですよ。

- 委員 何かさつき、ひもとか何とか新聞とかというお話を、それは面倒くさいだろうと思って。
- 委員 袋がなければということですね。
- 委員 ないというか、自分の家の紙袋ない家なんてあんまりないと思うので。
- 委員 こういう袋でもいいのですよ。習慣になっちゃえばたくさん集まるから、これをもうちよっとマチのある厚い袋とか、今、インターネットでいろんなものを買うから、それが届いたときの袋をとっておいて、そこに入れるとか。そういうことを教えてあげないと、紙を資源化していない人はそういうことを思いつかないから。そこを丁寧に教えてあげればできるのですよ。
- 会長 ちょっと簡単でいいのだという。
- 事務局 それ、ホームページ検討して。
- 事務局 はい。
- 委員 とりあえず、とっておいてそこに入れる習慣さえついてしまえば、どんどん可燃ごみには入らなくなるというか。
- 委員 あと、アマゾンとかいろんなところで、宅急便で届くものが多くなってきたじゃないですか。だからそういう意味では、もう紙ごみってすごくふえている、段ボールも含めてふえてきているので、そういう意味でもやっぱり一つの買い物かごだけで済まないことが出てきているから。それだけでもふえているものをに回せば。ごめんなさいね。至らないことで。
- 事務局 いえいえ。
- 委員 市役所の一角とかに、紙ごみ捨てる場所とかつくれないのですか。
- 事務局 雑紙ステーションみたいな感じですか。
- 委員 集まり過ぎちゃったら問題になっちゃうのでしょうかけれども、スーパーでやるみたいに、あんまり家にためたくないの。
- 委員 市役所のどこかにね。
- 委員 できればまめに捨てて、きれいな状態でそういうリサイクルができると思うのですけれども。
- 委員 熱海市役所がやっています。熱海市役所のロビーに回収箱を設置して、それが物すごく好評になったから、公共の施設でもボックスを置いて、ご自由にお持ちくださいというので雑紙のボックスを置いている。集まったものをリサイクル工場に持って行って、その重量に相当したトイレットペーパーをもらう。それを小学校に提供したり、公共施設で使うと。物すごい量、集まるのですって。
- 事務局 それはすぐできそうですね。
- 委員 それもPRになるのですよ。白井市がこういうことを始めましたと。こういうボックスを市役所ロビーに置きましたので、ご家庭にある雑紙をついでのときに持ってきて入れてくださいと。
- ただ、こういうものはだめですという公表だけをすればいいし、そのボックスの横に、こういうものはだめですという絵を描いておけばいいわけだから。実物を

張っておいてもいいし。やり方はいろいろです。

- 事務局 何かしら、目に見えるもので示さないと、意識変わらないですものね。
- 委員 だから、単にプリントだけして配っても、もう関心のない人は見ないですから。それをしたときに、ちょっとマスコミに取材していただいて、どこかに記事にしてくださいとか。そうすると意外と気にしていなかった方が見るとか。
- 事務局 わかりました。担当がすぐ対応します。
- 委員 そうすると市役所に来る用のない人は、今度は家庭で集めるようになりますし、家庭で集めて、資源の日に出すようになりますから。でも、市役所に若いお母さんたちは結構来る用はあると思うのです。子供のこととかいろんなことで。そういうときについでに持ってきてボックスに入れるとか。やり方はいろいろですよ。
- 事務局 試験的にやるにはそんなに、それこそ金もかからずに、目に見えるし。
- 委員 今回の委嘱状に古紙を使用することも何か減量の一つじゃないけれども。私はそれ賛成です。
- 委員 2年後には雑紙で出してください。
- 事務局 済みません。本当は重厚なケント紙使っていたのですけれども。
- 委員 いえ、十分です。
- 事務局 なので、一般的なコピー用紙に変えてしまいました。
- 委員 初めてもらいました。こんな紙の。
- 事務局 一応、審議会は減量でございます。使う紙を薄くすれば、それだけ減りますので。
- 事務局 私選びました。
- 事務局 ○○さん、そこまで考えてやったんですよ。
- 事務局 やりました。もちろんです。
- 事務局 ちなみにこれが前回のやつです。単純になくなっちゃったからとか言わないでね。
- 事務局 言わないです。考えました。ちゃんと考えました。
- 委員 何かフリートークの場を設けてもらえると、参考にできるところがあるかなと思って。
- 委員 そうですよ。
- 会長 会議のときには言えなかった。
- 委員 大したことないのに聞きづらいとか。
- 会長 いいかもしれない。
- 事務局 お時間のある方は、どうぞ。会場は大丈夫です。
- 委員 このフリートークも、会議としてやってもおかしくないですもんね。
- 事務局 もう全然。
- 委員 会議としてやったほうが、ちゃんと記録に残るから。
- 事務局 録音しているの。
- 事務局 まだしてありますので大丈夫です。

- 委員 きょう、すごく早かったから、みんな、ちょっと不完全燃焼みたいになって。そういうところがあるかもしれない。
- 会長 最初はどうしても形式張っちゃうからね。いいですね。
- 委員 こんな若い方がちゃんとこういう会に参加して下さって、非常にありがたいし、本当にいいことですよ。本当に。子育て中の若い方も参加して下さるしと思って。どうしても、結構上の方ばかりになりがちですけども、世代が違ったりやはりなかなか伝わっていない情報もあるし、考え方も違ったり。白井市にもっと若い世代の人口をふやしたいと思ったら、こういう方の意見をちゃんと聞いたほうがいい。住みやすい町にするために。
- 委員 人口減による、先ほど、ごみの少なくなるというの。白井市自体も、これから将来に向かって人口減ですか。
- 事務局 平成 32 年をピークとしまして、そこからは減少傾向には入るという予測をしています。
- 委員 でも同時に、紙おむつとか、そういう高齢化に向かっての新しいごみが出てきますから、決してごみは減らないです。
- 会長 そうですね。幼児だけじゃないのですよね。
- 委員 こちらのほうがすごく多いのです。
- 事務局 元気高齢者だけだったら、そういうごみがいらないので、だから健康は大事だと思いますね。
- 会長 結構、違法投棄がありますよ。ひどい。重い、また。
- 委員 そうですね。うちも犬の介護でびっくりしました。紙おむつ。犬の介護。
- 委員 うちも飼ってまして、量多いですね。
- 委員 でも、人間が年をとると、消費が減るのですよね、何でも。ペットボトルとかそういうのが減っちゃって、うちが今その状況なので。まだ紙おむつは出していないので、ごみがすごく減っているというふうに思います。人口が減ったわけじゃないのです。消費が減っているのですよ。
- 会長 なるほどね。消費減ね。
- 事務局 だから、プラスチック製容器包装類、黄色の袋、今、1種類しかないのですけれども、たまにお年寄りの方から、袋が大きすぎて出すまでに時間がかかって、もう少し小さな袋をつくってくれないかなんていう話はあるのです、やっぱり。だからそこら辺すると、消費のものというのは減ってきているのかなとは思っているのですけれども。ただ、燃やすごみのほうは出るのです。黄色の袋だけはサイズを変えてくれないですからねという話がありますよね。
- 今、ごみ袋は、印西市とうちで共通の袋なので、組合にも話しても、やっぱりコストがかかっちゃうので、どうしても今1種類しかつくれないというふうには言われているのですけれども。そこら辺は考えていかなくちゃいけないのかなとは思っていますね。
- 委員 世帯人数も減って、子供がいなくなるから減っちゃうので。

- 委員 出て行ってとかね。
- 事務局 燃やすごみは3種類あるのですけれども、燃やさないごみ、燃やさないごみはいいのですけれども、やっぱり黄色の袋が大きすぎるというのは、お話はありますね。
- 委員 雑談ですけれども、近所で、若い人がすごいなと思いましたのが、紙おむつ使わないお母様がいらして、生ごみも、こんななのです。少なくて、すごいなとかいって、どうやってやるのかなと思って。でもすごいなと思って。3人家族ですが、紙おむつも使わずに、もう大きくなりましたけれども。量もいつも小さくて。どうしているのかしらと思って。すごいなと思いながら、感心して見ていますけれども。
- 委員 若いお母さん方も、結構、意識が高い方がふえているかなと思いますね。
- 事務局 さっき言ったように、小さな子供のうちから教育といいますか、習慣づけると、それがそのまま大人になっても継続するというのがありますので。
- 委員 何か聞きたいということがあったら、どんどん、ベテランの皆さんがいらっしゃるから。
- 委員 ごみが小さいお家に遊びに行きたいです。
- 委員 呼んだら声かけますから。子供は幼稚園児が1人、男の子。年長、年中か。でもお掃除はしない。
- 委員 お掃除はしない。
- 委員 しないのではないかなと思いますけれども。ふと、生活習慣、うちは集合住宅なので、お2階なので。出歩いているのですけれども、私も。でも、あんまり掃除はしていないのじゃないかなと。
- 委員 やっぱりごみのことを考えて暮らすと、うちは黄色いごみ袋がすぐいっぱいになっちゃって、逆に。1週間でぱんぱんになっちゃうので。
- 委員 分けてからもですか。
- 委員 分けるとふえるのですよね。友達をよく呼ぶので、呼んだお友達も結構影響を受けて、ごみを捨てるようになると、黄色い袋大きくなるよねみたいな感じで。プラスチック類すごく多いねということは言ったりしています。意識はちょっと変わると思います。
- 委員 高齢化して、年とると、ごみのところまでごみを持っていけないという状況が、最近多くなっていると思うのですけれども、それって、ごみのところまで行けなかったら、誰かが出すとかじゃなくて、自分の家にごみの置き場をつくるというのは、個人でもできるという話を聞いたのですけれども、そうすると、ごみの回収の車は、件数が多いほど収入になるという話をちょっと聞いたのですけれども、それは本当なのでしょうか。
- 事務局 基本的には、件数が多いから収入になるのではなくて、運んだごみの量と、あと、走行距離が。
- 事務局 コストを、やっぱり有料化を実施するところで、お年寄りの世帯、申し込んだと

ころだけ個別回収をしましよというふうにするところもあるんですね。あとは、もう全て個別回収で、どうしても収集車とかが入っていけないところは、今みたく、ちょっとした集積所みたいな形にして取り入れるというところもあるのですけれども。やはりそうすると、コストがどうしても上がってしまうので。収集時間もかかりますので。そこら辺がどういうふうに捉えていくかというのがあると思うのですけれども。そういうところに集積場の収集から個別回収というところに持っていくところも結構ありますので。そこら辺も検討課題かなというふうには思いますね。

○委員 誰かを頼んで、1回幾らを出して、ごみを出してもらおうという話もあるぐらいなので。そこまで入っていくのに50円とか100円とかとって持って行ってでも、持っていけないから、もうとにかくここに来てほしいという人も最近ふえていますから。できるのなら、やってほしいなど。

○事務局 全部じゃなくて、高齢者に限って、そういうふれあい収集みたいなところもありますので。粗大ごみも今、職員が持ち出すということもやっていますので、燃やすごみの回収もどういうふうに、高齢者、ごみ出しが困難だということについては、そこら辺はやっぱり検討する余地があるかなというふうには思っています。

○委員 どこかの自治体でモデル的に、今おっしゃったような方がおられる場合は、当番があって出してあげますよというのを、市のほうで、こういう事例がありますというPRをしてもらえば、意外と各自治会も、これはいいことだとなってくると思うのですよね。

○委員 そうですよ。自分の家まで来ればいいじゃんといったら、えっ、そんなことできるのとやっぱりみんな言うので。やれるのじゃないのと言ったんですけれども。

○委員 骨折したとか、やっぱりいろんな人がいますから、出せないよという人については、何か対応をしたほうが、ごみもスムーズに回収できるし。時々、広報にごみ減量についてという案内が出るのですけれども、各家庭の100グラム当たり、可燃ごみで出したときに、どれぐらいの費用がかかるのかと。クリーンセンターでは150円かかっていますと、あるいは500円かかるのですよと。100グラムのものを可燃ごみで出したら、これぐらい各家庭は負担しているのですよというような、そういうこともちょっと入れてもらうと、そんなに金を使っているのかと。それは自分たちの税金の話ですから、何か抑制効果というか、なるべく出さないようにということにもつながっていくのではないかと思いますよね。

○会長 例えば、よく自治会さんに、集積所の管理をしてくれる人、何という。

○事務局 生活環境指導員。

○会長 そうそう。そういった方もおられるわけだから、そういう方々出していけば、いろんなやり方があるのではないかなと。

- 委員 でも、それは違う役員だと思いますよ。ごみがちゃんと出ているかを管理する役員なので、また違うと思います。
- 会長 あとは、隣近所の方とか。よく東京都内なんか、各場所に車で行くじゃないですか、集めに。ああいった形式ができるのかどうなのか。例えば、白井市の指定業者さんにお話しして、そういったことがもし可能であれば、一、二カ所でいいのだけれどもみたいなお話をしてみるのも。
- 委員 これからはふえると思いますけれどもね。
- 事務局 そういう意味では、シルバー人材センターで、今悩んでいる人があってニーズがあるだろうということで、試験的にごみの持ち出し支援を業務としてやったらどうかということで、ニュータウン地区で、堀込とかそのあたりでビラを入れ込んでやったのですけれども、やっぱりニーズがなかったということです。
- 委員 私のところに来た。
- 事務局 あれ、1袋幾らだっけ。三つまで幾らだとかという料金設定で。
- 会長 それ、うちの自治会で頼んでもらおうかな。でも、えらい大変な思いをしているものですから、お年寄り。
- 委員 ごみは小さいと思いますよ、消費がないから。だけど、小さいけれども、歩いていけないんですよ。年をとると。
- 会長 一つ持ちましょうかと言うと、両手でバランスをとっているのだよって。じゃあ、両方持ちますと言えばいいのだけれども、私も持っていたものだから。それも考えなきゃだめだな。
- 事務局 うちも、できるところはなるべく取り組んでみたいと思っています。
- 委員 粗大ごみの有料化の、有料化というか値上げの件については、広報にこの間出ていて、案外知っていると思うし、値上がりするのだという話題になっていました。
- 事務局 一応、今、事務局と前回の方針をいただいて、それをもとに条例の改正案を今、議会に上程させていただいております。多分否決にはならないと思うのですけれども、この間、委員会では全員賛成で可決をいただきましたので、あとは本会議で議会の議決ということで、準備期間、1年近くみてありまして、1月1日から新料金ということです。年末の大掃除までにきっちりと片づけて、新たな気分で値上げに対応してくださいと。
- 会長 人の、さっき言ったごみ、あるじゃないですか。出しておいてあげますよとか。あれ、人に見られるの嫌だとかいう人いないのかな。
- 委員 いますよ。
- 委員 やっぱり頼みたくないという心理がある。だから、ポスティングしてもなかなか。本当に困らないと頼まないです。だから、むしろ知らない人に持っていったほうがいいとかね。
- 事務局 プライバシーとか、非常に気になさる人いらっしやいますからね。
- 委員 うちのほうでありましたけれども、それこそ遠くから来て、ごみを出しに、ごみ

の日に来ているというボランティアをやったことあるのですけれども、やっぱり遠くから来るので、それは大変とって、近所の人が見かねて出してあげるようになったことはあります。足がちょっと悪かったけれども。

○委員 本当は、だから、お隣の方が、自分が出しに行くついでに持って行ってあげるといのがいいでしょうけれども、なかなかそういう、ごみだから、お願いできるものとできないものがあり、気軽に頼めないところではあるのかもしれない。

○会長 難しい。今、青い袋じゃないですか。半透明で見える。その中に見えない物をこう。

○委員 見えない物を袋にすると、いろんな物入っちゃいますから。

○委員 見えるからこそ分別されているのですよ。

○事務局 昔は黒い袋でね。

○委員 そうでしたね。

○会長 今、資源ごみでも持っていてももらえないような状況になってきているじゃないですか。あれも何とかしたいなど。これはもうだめよと。鎌ヶ谷か何かの回ってくる業者さんなんかは、今後は、これは扱いませんのでとか、出さないでくださいとか。

私、知り合いに、今こういう状況になっているのだけれども、月に1回でも2回でもいいから、今、持っていてももらえないものを持っていてももらえるようにしてくれないかという話を今しているのですけれども。定期的に回ってほしいと。ああ、いいよということになって。

ただ、それ持っていてももらうのはいいけれども、それをまた変な方向の形でごみを処理されても困るので、きちんとした形で処理してもらわないとね。その先も見ていかないとならないから、これからは大変ですよ。ステンレスというか、コードがついていたらだめだとか、いろいろある。パソコンもだめだとか、してきているので、それを上手に持っていかないと。多分自分の目の前からなくなればいいやというものでもないの。

○委員 ないですね。

○委員 100メートル先に不法投棄されているかもしれない。

○委員 そうですね。

○会長 何とかしなきゃね。

○事務局 たまにありますね。この間かな、金山落って今井の桜というところで、あそこで生き物観察会をやったら、そこに何かごみあるのですよ、どかんと。

○委員 ごみってごみを呼ぶのよね。汚いと、ずっとまた違う人がごみを落としていきますよね。

○事務局 そうなのです。ごみとお金は寂しがり屋なんですって。お金はある人に行って、ごみもあるところに行く。何かそういうあれらしいです。

○委員 町をきれいにすることが大事ですね。

○事務局 そうですね。ただ、たまたまそこのやつは、中に証拠になる物があったので、警

察に入ってもらって、片させました。

○会 長 何とかしなきゃね。できることいっぱいあるからね。

以上で、本日の予定いただきました議事は全て終了いたしました。ご協力ありがとうございました。

この後は、事務局にてお願いいたします。

○事務局 あと、会議を終わりました、後ほど、報酬のほうを銀行振り込みで振り込みさせていただきますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。